

松前公園のサクラ・・・『夫婦桜』三大名木

山上勝治（5期）

景観と安全

公園海側の天神坂門の下斜面に生育する松前公園の三大名木とされる大径木である。斜面下側に石階段、園路があり園路の上をその大枝が広がる。その大枝から延びる小枝、花は通行する人の手が届き触れる事ができサクラを愛でるのに最高の樹形（枝張り）となっている。「夫婦桜」の名前の由来は南殿の桜を接ぎ木により増やす際に台木として使用した染井吉野が接ぎ穂の南殿とともに成長し二品種の桜が一体となり一本の桜に見えているためである。

雄大な樹形や間近で見ると花は人々に大きな感動を与え楽しませてくれる。反面大きく育った樹形は、大枝等の折損落下による事故発生リスクが高まる事にもつながる。幹、大枝等の折損は樹形の崩壊（景観性の損失）や人身的事故（安全性の損失）を招くこととなる。

桜の名所（公園）の樹木には景観性と安全性の両立が求められる。サクラの魅力を最大限に伝えたいと考える管理者にとっては最も頭を悩ますところとなる。そのため観光名所での老齢大木には一律的な管理に加え専門的な点検による樹形、樹勢、安全性の維持向上が必要となる。



手に触れ桜の花を愛でることができる反面危険も伴う

左：染井吉野 右：南殿



大きく下垂し広がる枝張りは桜の景観性価値が高い

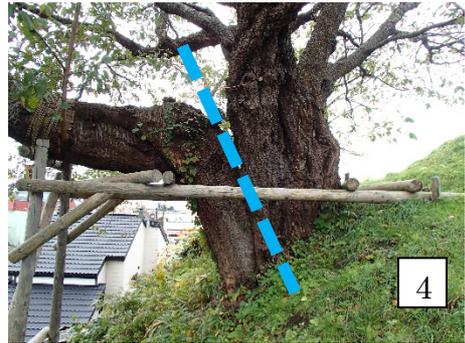
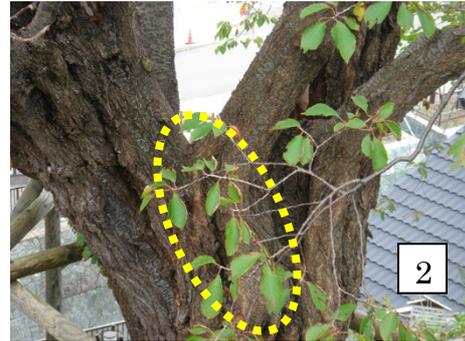
現況と提案

夫婦桜（メオトザクラ）

【品種：染井吉野＋南殿（マツマエハヤザキ） 推定樹齢：60年以上】

一見全体的に枝葉の量、色、形状から判断し生育状態は《良好》であるが南殿側の樹勢の低下、枯れが目立つ、生育地は法面の上部（法肩）に位置しサクラにとっては好適地と言える。園路上に水平方向に張り出している大枝は現在一部分が丸太支柱によって支えられているが、気象（雨、風、雪）の影響を受けやすく折損落下の危険が高い。自重による折損も懸念される。主幹中央部からの折れ（割れ）る可能性も高く、折損が起きた際には樹形の崩壊や事故発生につながる。今後は生育地盤の改良も視野に入れた樹木点検を行い樹形、樹勢の維持向上を図る長期的な対応が必要と考える。

現況写真



- 1) 枝葉のバランス、緑量、色、形良好
- 2) 樹皮の肥大成長が良好で腐朽跡の癒合再生が進む
- 3) 水平方向に長く伸びた大枝
- 4) 主幹部の縦割れが懸念される